

船舶事故調査報告書

平成25年2月7日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵男（部会長）

委員 庄司 邦昭

委員 根本 美奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成24年8月12日 02時10分ごろ
発生場所	山口県上関町横島東岸 上関町所在の室津港白浜D防波堤西灯台から真方位177°1,840m付近 (概位 北緯33°49.0′ 東経132°07.4′)
事故調査の経過	平成24年8月21日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	貨物船 第八鋼運丸、498トン 134849、坂本海運株式会社 76.43m×12.00m×7.00m、鋼 ディーゼル機関、735kW、平成7年2月16日
乗組員等に関する情報	船長 男性 60歳 三級海技士（航海） 免許年月日 昭和56年12月1日 免状交付年月日 平成21年3月16日 免状有効期間満了日 平成26年6月20日 航海士A（次席一等航海士） 男性 72歳 四級海技士（航海） 免許年月日 昭和47年2月18日 免状交付年月日 平成23年4月15日 免状有効期間満了日 平成28年11月12日
死傷者等	なし
損傷	船首船底部に破口、凹損及び擦過傷
事故の経過	本船は、船長及び航海士Aほか3人が乗り組み、スラグ約1,530tを積載し、船首約3.33m、船尾約4.84mの喫水で平成24年8月11日11時30分ごろ兵庫県東播磨港を出港して新潟県上越市直江津港に向かった。 航海士Aは、23時20分ごろ船長から船橋当直を引き継ぎ、山口県柳井市平郡島北方沖において、針路を真方位約260°に定め、約10.5ノットの対地速力で自動操舵により航行した。

	<p>航海士Aは、12日01時55分ごろ平郡水道第2号灯浮標を左に見て通過した後、椅子に座ったところ、前路に他船を認めなかったので気が緩み、居眠りに陥った。</p> <p>本船は、平郡水道中央付近の変針予定場所に近づいたが、航海士Aが居眠りをしていたので、変針せずに通過し、02時10分ごろ横島東岸の岩礁に乗り揚げた。</p> <p>航海士Aは、衝撃で目が覚め、昇橋してきた船長が、海上保安庁に事故の発生を連絡し、本船は、自力で離礁できなかつたので、タグボートに引かれて離礁後、修理のために広島県江田島市小用港^{こよう}へ入港した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好</p> <p>海象：波 なし、潮汐 上げ潮の末期</p>
その他の事項	<p>本船の船橋当直は、船長、航海士A及び一等航海士の3人により、4時間交替の輪番制で行われていた。</p> <p>航海士Aは、船長が平成24年7月初めに乗船してから船橋当直の時間帯が変わり、体調を崩していた上、停泊時には荷役作業で休息がとれず、睡眠時間が短時間であり、疲労が蓄積して睡眠不足の状態であった。</p> <p>本船には、第二種船橋航海当直警報装置（居眠り等の当直者の異常を感知した場合、船橋、船長室等に警報を鳴らすことにより、事故を防ぐシステム）が設置されていたが、船橋を無人にすれば、船橋、船長室、機関室などで警報が鳴るので、荷役中に船長が電源を切っており、航行中も騒がしいという理由で電源を切った状態にしていた。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、横島東方沖を自動操舵により南西進中、単独で船橋当直中の航海士Aが居眠りに陥ったことから、変針予定場所を通過して横島東岸に向けて航行し、同島東岸に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>航海士Aは、前路に他船が認められなかつたので気が緩んだこと、及び疲労が蓄積して睡眠不足の状態であったことから、居眠りに陥った可能性があると考えられる。</p> <p>船長が、第二種船橋航海当直警報装置を作動させていれば、航海士Aの居眠りを防止できた可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、横島東方沖を自動操舵により南西進中、単独で船橋当直中の航海士Aが居眠りに陥つたため、変針予定場所を通過して横島東岸に向けて航行し、同島東岸に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>

参考	<p>運航者は、本事故後、航行中には第二種船橋航海当直警報装置を作動させ、適切に対処するよう本船側を指導した。</p> <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 船橋当直者は、疲労を感じたときは、椅子から立ち上がって体を動かしたり、コーヒーを飲んだり、ガムをかんだりするなどの居眠り防止策を採ること。
-----------	---